

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
専門学校麻生工科自動車大学校		平成20年3月31日		竹口 伸一郎		〒 812-0007 (住所) 福岡市博多区東比恵2-8-28 (電話) 092-433-0633																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		理事長 麻生 健		〒 820-0018 (住所) 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999																			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																
工業	工業専門課程		自動車工学・機械設計科		平成28(2016)年度		-		平成25(2013)年度																
学科の目的		3DCADエンジニア、設計開発エンジニア、FA制御エンジニア、組込みエンジニアとして、いずれにも対応できるカリキュラムで、発想力が強く、物事に柔軟に対応できる人材を育成する。																							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)		主な教育内容：設計の基礎となる各種力学・工学及び設計現場の即戦力となるためのCAD技術 取得可能な資格：ACSP主催3次元CAD利用技術者試験(1級、準1級、2級)、シーケンス制御作業、機械設計技術者、CATIA認定技術者、ガス溶接技能者、アーク溶接特別教育																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			2,430 単位時間	1,170 単位時間	1,260 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間															
					単位	単位	単位	単位	単位	単位															
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率																		
30人	21人		2人		10%		3%																		
就職等の状況	■卒業生数(C) : 10人																								
	■就職希望者数(D) : 10人																								
	■就職者数(E) : 10人																								
	■地元就職者数(F) : 3人																								
	■就職率(E/D) : 100%																								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 30%																								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100%																								
	■進学者数 : 0人																								
	■その他																								
	就職指導内容： 職業安定法第33条の2に基づいて、求職票を受理した全学生を本校で活動する求職者として登録し、求職者の依頼に基づき就職の斡旋を行う。 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)																								
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 自動車メーカー、自動車部品メーカー、産業機械メーカー																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 受審年月： 年 月 評価結果を掲載したホームページURL																								
当該学科のホームページURL	https://asojuku.ac.jp/acet/mechanical/																								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A：単位時間による算定)																								
	<table><tr><td>総授業時数</td><td>2,430 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,430 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr></table>											総授業時数	2,430 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	180 単位時間	うち必修授業時数	2,430 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	180 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間
総授業時数	2,430 単位時間																								
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																								
うち企業等と連携した演習の授業時数	180 単位時間																								
うち必修授業時数	2,430 単位時間																								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	180 単位時間																								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																								
	(B：単位数による算定)																								
	<table><tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr></table>											総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総単位数	0 単位																								
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																								
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																								
うち必修単位数	単位																								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																								
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																								
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																								
教員の属性(専任教員について記入)	<table><tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>2人</td></tr><tr><td>② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>1人</td></tr><tr><td>③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0人</td></tr><tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>0人</td></tr><tr><td>⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0人</td></tr><tr><td>計</td><td>3人</td></tr><tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td>3人</td></tr></table>											① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	3人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	3人
	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																							
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																							
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																							
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																							
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																							
	計	3人																							
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	3人																								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

3DCADを駆使した製品設計開発、各種工学知識、PLC(シーケンサ)、産業用ロボットなど企業に近い環境の中で実務スキルを身につけ、3DCADエンジニア、設計開発エンジニア、FA制御エンジニア、組込みエンジニアとして、いずれにも対応できる人材を育成することを基本に、適宜編成委員会を開催し授業内容等について確認を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。また、インターンシップ時等に企業訪問を行い、企業からの要望を伺い教育に生かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、以下に示す事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

カリキュラム会議では、教育課程編成委員会からの報告を踏まえ、カリキュラム等の検討を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
寺崎 浩二	一社)福岡県自動車整備振興会 指導部部長	令和5年11月1日～令和6年10月31日(1年)	①
中村 仁	ダイハツ九州株式会社 久留米工場 主査	令和5年11月1日～令和6年10月31日(1年)	③
蜷川 雅己	株式会社 大興 顧問	令和5年11月1日～令和6年10月31日(1年)	③
澤井 雄太	株式会社 マイナビEdge 九州営業所 所長	令和5年11月1日～令和6年10月31日(1年)	③
竹口 伸一郎	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
永江 貴史	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
小串 浩之	専門学校 麻生工科自動車大学校 シニアエキスパート	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
斉藤 秀之	専門学校 麻生工科自動車大学校 副主任	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
坂口 利文	専門学校 麻生工科自動車大学校 教員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回 (6月、10月) (開催日時(実績)) 第1回 令和5年6月15日 14:00～15:00 第2回 令和5年10月12日 15:30～17:00			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 次世代自動車の普及が進んでおり、EVに関する授業を入れた方がいいのではとの意見をいただいた。自動車整備科においてもEVのカリキュラムが新たに追加されるなど、業界全体でEVに対応できる人材の供給が急務となっており、EVに関する授業を取り入れていくことを確認した。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 企業は学生に対し、ものづくりの設計開発から製造までを実習させる事により、学生の学習効果を高め、かつ即戦力となる事を基本方針とした校内教育を実施する。実習においては、「車両製作・開発実習」等のスキルを身につけ即戦力としての人材を育成する。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 学校の教員と企業の担当者として事前に授業の内容や課題レベル、評価基準等について、協議し決定する。企業の担当者は、実務における設計の考え方や実践的な設計手法を講義する。提出課題および報告会の内容にて企業担当者が学生の理解度を確認し定期的に評価する。担当教員は課題の内容を自動車設計に関連づけるための情報提供を行う。前期及び後期末時に課題及び企業評価を確認し、本校教員が成績評価を行う。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
	科 目 名	企業連携の方法	科目概要 連 携 企 業 等
	車両開発・製作実習Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	「走る・曲がる・止まる」の自動車3大性能を備えた車両の設計開発を通して、機械設計職の理解を深める。2年間かけて設計・製作を自らの頭脳と手でやり遂げる。この科目では、設計資料作成・車両評価を重点に実施する。 株式会社 マイナビEdge
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 研修については、教職員に対して、現在の職務又は今後就くことが予想される職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。 専攻分野における実務に関する研修については、各自動車製造メーカーにて定期的に行われる技術研修を適宜受講。 受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。			

(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名：自動車技術会九州支部・関西支部合同例会	連携企業等：自動車技術会九州支部
期間：2023/9/8	対象：1名
内容 日産自動車九州工場の車体工場・組立工場の見学及びNissan Intelligent Factoryの取り組みについて	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名：授業におけるファシリテーション(対面授業編)	連携企業等：株式会社ONDO
期間：2024/3/11	対象：1名
内容 ファシリテーションの場面設定、意見の引き出し方、意見のまとめ方、板書のコツなどを学ぶ	
(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名：ISO研修会	連携企業等：公益社団法人自動車技術会
期間：2024/8/20	対象：1名
内容 標準・標準化・規格について TC22(自動車)及びTC204(ITS)活動等	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名：Z世代のメンタルヘルス～自分としてイキるをサポートする	連携企業等：うえむらメンタルサポート診療所
期間：2024/8/22	対象：1名
内容 学生の心理的な健康を理解し、自己肯定感の低い学生に対する適切なサポートを考える	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針	
本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5)学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11)国際交流	留学生の受入れ、支援体制
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)学校関係者評価結果の活用状況	
子供たちが自動車の設計を体験できるようなイベントをしてはどうかとの意見をいただいた。地元の小学生に対しての職業理解イベントでは、今までは自動車整備の内容がほとんどだったので、次回から設計に関する体験の追加を検討することを確認した。	

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 執行役員人事部部長	令和5年8月1日～令和7年7月31日 (2年)	企業等委員
市川 利治	福岡トヨタ自動車株式会社 代表取締役専務	令和5年11月1日～令和7年10月31日 (2年)	企業等委員
芹澤 毅	ダイハツ工業株式会社 くま開発本部くらしとクルマの研究部くらし研究室室長	令和5年9月1日～令和7年8月31日 (2年)	企業等委員
武田 真秀子	平成23年度卒業生	令和6年4月1日～令和8年3月31日 (2年)	卒業生
杉本 誠	平成22年度卒業生	令和6年4月1日～令和8年3月31日 (2年)	卒業生
石井 孝治	1級自動車整備科保護者	令和6年4月1日～令和8年3月31日 (2年)	保護者等
村上 伸二	東比恵2丁目元町内会会長	令和5年11月1日～令和7年10月31日 (2年)	地域住民
寺崎 浩二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日 (2年)	有識者
佐伯 道彦	福岡工業大学附属城東高等学校 校長	令和5年9月1日～令和7年8月31日 (2年)	高等学校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/acet/2024/hyoka.pdf>

公表時期: 令和6年10月4日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

オ

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方
(2)各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、資格実績、就職実績
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、留学生キャンパスライフ、留学生ASOの就職サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生入学案内、留学生学べる分野、グローバル教育、海外での大学教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/acet/>

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車工学・機械設計科) 令和6年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			自動車工学Ⅰ	理工学社発行 自動車工学入門 自動車の基本機能「走る・曲がる・止まる」のしくみに関する知識、自動車の性能・強度の基礎知識	1 通	60		○			○			○	
2	○			機械要素	日本実業出版社発行 学生のための初めて学ぶ機械工学 エンジンのしくみと性能熱から仕事への変換・低公害で燃費の良いエンジン	1 通	60		○			○			○	
3	○			就職実務Ⅰ	職業理解と企業研究を重点に行う。 興味、価値観、性格、能力などの自己分析とキャリアプランニング	1 通	60		△	○		○		○		
4	○			基礎数学	実教出版発行 これだけはおさえたい理工系の基礎数学 数式から方程式の基礎を理解する。比と割合、指数関数と対数関数、ベクトル	1 通	60		○			○			○	
5	○			基礎物理	河合出版発行 物理のエッセンス 力学・波動 力学や波動の基礎を理解する。微積分物理、次元解析	1 通	60		○			○			○	
6	○			英会話Ⅰ	Pearson Japan出版「SIDE by THIRD EDITION」 コミュニケーションを図る上での基本的な表現方法を学ぶ。	1 通	60		○	△		○			○	
7	○			TOEIC対策Ⅰ	Listening Readingの基礎力向上を目標に、スコア600を目指す。	1 通	60		○			○			○	
8	○			CATIAⅠ	CATIAでのモデル作成や図面作成における基本的な操作方法について学ぶ。	1 通	60		△	○		○		○		
9	○			検定対策Ⅰ	設計に関する幅広い知識を習得し3次元CAD利用技術者2級の取得を目指す。	1 通	120		○	△		○		○		
10	○			図学	機械製図の基礎を理解する。 図形や寸法の表し方、寸法公差およびはめあい、材料記号等	1 通	60		○			○			○	
11	○			加工実習Ⅰ	普通旋盤・フライス盤・ベンチドリル、各部の名称及び基本操作。各設備対応の切削工具と、その使い分け。基本課題切削、及び設備保全	1 通	90			○		○			○	
12	○			デザイン実習	絵を描く事の基礎を学び、実際に自動車のコンセプトデザインを作成する。スケッチ作成の基礎を学ぶ。	1 通	60		△	○		○			○	
13	○			自動車工学Ⅱ	理工図書発行 自動車力学 自動車の性能・強度に関する力学的理論。主要装置の仕様内容	2 通	60		○			○			○	
14	○			材料力学Ⅰ	東京電機大学出版局発行 材料力学 考え方・解き方 弾性理論の基礎知識、構造物の強度解析の基礎知識	2 通	60		○			○			○	

(工業専門課程 自動車工学・機械設計科) 令和6年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
15	○			就職実務Ⅱ	就職に対する心構えと準備を重点に行う。 自己分析、仕事研究などから自己PR、志望動機などの準備	2通	60		○	△		○		○		
16	○			英会話Ⅱ	Pearson Japan出版「SIDE by THIRD EDITION」 コミュニケーションを図る上での応用的な表現方法を学ぶ。	2通	60		○	△		○			○	
17	○			TOEIC対策Ⅱ	Listening Readingの基礎力向上を目標に、スコア600を目指す。	2通	60		○			○			○	
18	○			G C BⅠ	人間教育（感謝の心とおもいやりの教育） 感謝の心が人間力の根底にあることを知る。人間力を高めるためのマナーの重要性に気づく。	2前	15		○			○		○		
19	○			G C BⅡ	人間教育（志の教育） 考えること、自分の言葉で伝える大切さを知る。行動する大切さに気づく。	2後	15		○			○		○		
20	○			CATIAⅡ	複数のモデルを組み合わせて作る方法やCAE解析を用いた強度検討方法について学ぶ。	2通	60		△	○		○		○		
21	○			検定対策Ⅱ	CAIAに関する知識を習得し3次元CAD利用技術者準1級の取得を目指す。	2通	60		△	○		○		○		
22	○			加工実習Ⅱ	構造品の製作・構造設計（加工図作成）・加工工程検討（内・外作の仕分け、他）・内作品の加工・品質確認（内・外作品とも）・組立配線	2通	90			○		○			○	
23	○			メカトロ演習Ⅰ	シーケンサへの配線作業 及び 図面に関する基礎知識。シーケンサプログラミング作成方法とプログラミングに関する基礎知識	2通	90		△	○		○		○		
24	○			車両開発・製作実習Ⅰ	車両の設計を行い、実際に加工、溶接を行い走る、止まる、曲がるの車両を製作する。予算に合わせた構想を思考する。また、ベースとなる部分の加工を行う。	2通	180			○		○		○	○	
25	○			自動車工学Ⅲ	自動車技術会発行 自動車工学―基礎― 自動車の開発の流れ―設計から評価まで―の業務内容・主要装置の設計方法の基礎知識	3通	60		○			○			○	

(工業専門課程 自動車工学・機械設計科) 令和6年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
26	○			熱・流体力学	機械設計技術者試験３級の取得を目的とした、熱・流体力学の応用知識と試験対策を行う。	３通	60		○			○			○	
27	○			機械設計学	機械設計技術者試験３級の取得を目的とした、幅広い分野の基礎知識と試験対策を行う。	３通	60		○			○			○	
28	○			材料力学Ⅱ	朝倉書店発行 材料力学 機械工学基礎講座3弾性理論による強度・剛性解析。構造力学による構造物の強度解析。材料強度の基礎知識	３通	60		○			○			○	
29	○			生産管理	理工学社発行 生産管理入門 工場の管理組織、生産の基本的な計画、工程管理、作業研究、資材と運搬の管理について学ぶ。	３通	60		○			○			○	
30	○			就職実務Ⅲ	就職に対する心構えと準備	３前	60			○		○		○		
31	○			英会話Ⅲ	Pearson Japan出版「SIDE by THIRD EDITION」コミュニケーションを図る上での実践的な表現方法を学ぶ。	３通	60		△	○		○			○	
32	○			CATIAⅢ	CATIAでのモデルを組み合わせる方法やCAE解析を用いた強度検討方法について学ぶ。	３通	60		△	○		○			○	
33	○			検定対策Ⅲ	設計変更しやすいモデルの作成方法について学ぶ。３次元CAD利用技術者１級の取得を目指す	３通	60		△	○		○		○		
34	○			メカトロ演習Ⅱ	産業用ロボットの操作方法 及び ロボット言語に関する基礎知識。シーケンサプログラミングに関する応用知識動作確認 及び デバッグ方法。	３通	90		△	○		○		○		
35	○			車両開発・製作実習Ⅱ	構造品の製作・構造設計（加工図作成）・加工工程検討（内・外作の仕分け、他）・内作品の加工・品質確認（内・外作品とも）・組立配線	３通	180			○		○		○	○	○
合計						35	科目	2,430			(単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。	1学年の学期区分	2期
履修方法：	各授業科目の総授業時間数の3分の2以上出席し、C評価以上の評価を取得することで、当該科目を履修したことを認める。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。